

◆令和2年度研究賞受賞者◆

【荻村孝特別研究賞】

武藤 朋也（千葉大学医学部附属病院 助教）
自然免疫シグナルから迫る造血器腫瘍の分子病態

【清水賞】

今村 俊彦（京都府立医科大学大学院 医学研究科 小児科学 講師）
IKZF1遺伝子欠失がPh-like ALLの発症および治療抵抗性に関わる機序の解明

【クレティセゾン賞】

古川 雄祐（自治医科大学 分子病態治療研究センター 幹細胞制御研究部 教授）
ヒストンメチル化酵素MMSETを標的とした高リスク骨髄腫に対する新規治療薬の開発

【井手賞】

小林 央（国立国際医療研究センター研究所 上級研究員）
申請者の開発した造血幹細胞の静止期維持培養を改良しつつ、静止期状態および機能を維持したまま造血幹細胞の遺伝子編集を行う技術を開発すること

【臨床医学特別賞】(順不同)

越智 陽太郎（京都大学大学院 医学研究科 腫瘍生物学分野/血液・腫瘍内科）
骨髄性腫瘍の遺伝子変異による転写異常の解明と新規治療法の開発

今井 千速（新潟大学大学院 医歯学総合研究科 小児科学分野）

初発の高リスクB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する二重特異性抗体プリナツモマブの効果に関わる免疫分子の探索的検討

【一般研究賞】(順不同)

保仙 直毅（大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 教授）
血液がんに対する新規CAR-T細胞療法の開発

宮城 聡（島根大学医学部生命科学講座 准教授）

造血器腫瘍で癌抑制遺伝子として働くPHF6遺伝子の分子機能を明らかにし、PHF6陰性白血病の創薬標的を同定する。

高田 穰（京都大学大学院生命科学系研究科附属放射線生物研究センター 教授）

ファンconi貧血におけるゲノム不安定性促進機構: DNA損傷感受性遺伝子SLFN11による造血不全と白血病発症に至るメカニズム解明

宮村 能子（大阪大学大学院 医学系研究科 小児科学 講師）

希少難治で特異な経過をとる先天性白血病の臨床経過や転帰、生物学的特徴を把握する。さらにその分子遺伝学的異常を探索して、病態解明や発症機序の解明につなげたい。

西村 聡（東京医科歯科大学 発生発達病態学分野 クリニカルアシスタント 大学院生）

Myeloid/Natural killer cell precursor acute leukemiaの分子病態の解明と分子標的治療の開発

籠谷 勇紀（愛知県がんセンター研究所 分野長）

急性骨髄性白血病細胞幹細胞を標的としたキメラ抗原受容体導入T細胞療法の開発

平山 真弓（熊本大学病院・中央検査部 医員）

RNAヘリケースDDX41が、ゲノム上のR-loopの形成を抑制することでDNA損傷応答制御を行い、造血器腫瘍の発症を抑えるメカニズムの解明

山崎 博未（神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 主任研究員）

アミノ酸代謝のマスター因子であるATF4を標的とし、急性骨髄性白血病の治療可能性についてマウス・培養細胞を用いて検証する

【毎日賞】

日本小児白血病研究グループ(JCCG) 造血細胞移植委員会 石田 宏之（京都市立病院小児科血液部長/京都府立医科大学小児科）

第1・第2寛解期小児急性骨髄性白血病を対象としたFLAMELLレジメンを用いた同種移植の安全性・有効性についての臨床試験(AML-SCT15)